

文化財の防災計画に関する研究 (①必修05-13-3/5)

目 的

自然災害による文化財被害は甚大であり、復旧には多大な労力と時間を要する。我が国では自然災害の発生予測が難しいうえ、発生後すぐの救援はほぼ不可能である。そのため、「減災」の方向性を探ることが他分野よりも求められている。本研究課題では「地震・津波」を対象に下記の調査研究を進め、文化財の減災に必要な研究成果を提供する。

成 果

1. 東日本大震災被災文化財に関する研究では、福島県の要請に応じて旧警戒区域内での救援活動を継続し、新たに福島県被災文化財等救援事業の実施を実現した。宮城県では、同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図りつつ、一時保管場所について温湿度・生物環境に関する調査を実施した。また、津波水損文化財を対象に修復方法に関する実験研究を行った。2. 文化財の地震対策に関する研究では、東大寺戒壇堂建物の常時微動調査、石造文化財について石造多層塔の現地調査や石灯籠の振動台実験を行った。

1. 東日本大震災被災文化財に関する研究

東日本大震災被災文化財に関する研究では、震災後2年を経過する中、福島県旧警戒区域内からの文化財救出と被災文化財の安定収蔵に向けた調査研究を継続実施した。

- ・東京電力福島第一原子力発電所事故により設定された警戒区域内の文化財を救援するため、平成24年度に被災文化財等救援委員会が活動を行ったが、完了しなかった富岡町・双葉町の両歴史民俗資料館からの救出と資料館以外の個人住宅等からの救出を実現するため、東文研単独で福島県被災文化財救援対策本部と連携して活動を続けるとともに、新たな枠組みとして国立文化財機構が中心となり実施する救援事業を発足させた。年度末までに全ての資料館からの救出活動を完了し、来年度以降福島県が独力で活動を継続するための基盤構築に貢献した。
- ・環境調査：宮城県石巻文化センター救援文化財の一時保管施設となっている旧石巻市立湊第二小学校校舎内の保存環境調査（温湿度、浮遊菌等）を行った。同県被災文化財等保全連絡会議との連携を図り、その他の一時保管施設の状況について情報を収集した。また、成果の一部について学会発表を行った。
- ・鹿嶋市龍蔵院の仏画では、過去の修理に伝統的材料を用いずに今回の震災による特徴的なダメージが発生した。そのような被災文化財の脱塩や裏打ち技法の開発など応急処置・修復に関する研究を進めた。

2. 文化財の地震対策に関する研究

東日本大震災にて多数の被害報告があった石灯籠を対象に、特に地面との接触方法に関して振動台実験による評価を行った。また、野田神社宝篋印塔（今治市）など石造文化財の現地調査を実施し、地震対策の必要性について考察した。塑像・乾漆像の調査については、既に転倒予測を行った東大寺戒壇堂安置の塑造四天王立像について、戒壇堂建物の耐震性を把握するため常時微動調査を行った

論文

- ・朽津信明『東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会平成24年度報告書』 pp.42-43 13.5

発表

- ・森井順之他 文化財保存修復学会第35回大会 東北大学 13.7.20-21

研究組織

○朽津信明、森井順之、早川典子、北野信彦、中山俊介、岡田健、佐野千絵、木川りか、佐藤嘉則、犬塚将英、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）